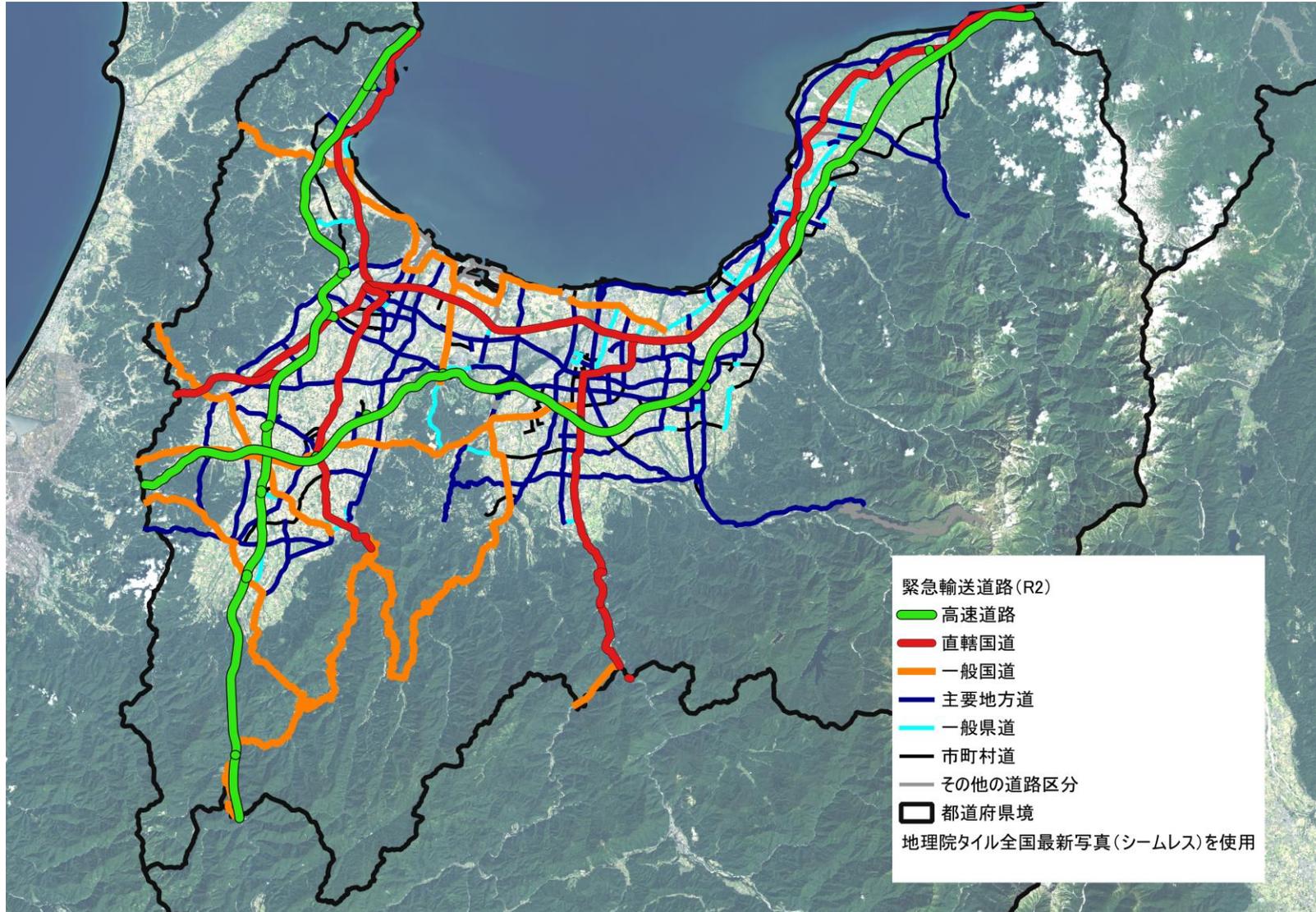


# インフラ・社会基盤施設関係

# 富山県の主要道路網

## 「富山県地域防災計画」における緊急輸送道路※の一覧



※災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらを連絡する基幹的な道路。

(出典) 国土数値情報 緊急輸送道路データ (R2) を加工

# 土木の役割

## ○公共インフラの維持管理



## ○雪に強いまちづくり



## ○県民の生命や財産を守る防災・減災対策

### 土砂災害対策



### 治水対策



# 土木の役割

## ○災害対応

令和5年6,7月豪雨



白岩川に架かる藤塚橋  
(立山町日中～上市町女川)



白岩川の護岸欠損による被災状況

令和6年能登半島地震



国道359号



伏木港



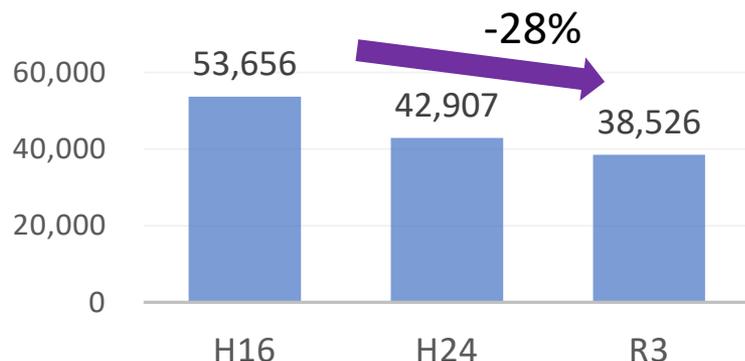
上庄川

# 土木を取り巻く状況

○県内建設業従事者及び県土木部の技術職員数は減少傾向。一方、維持管理が必要な公共インフラ施設は増加傾向にある

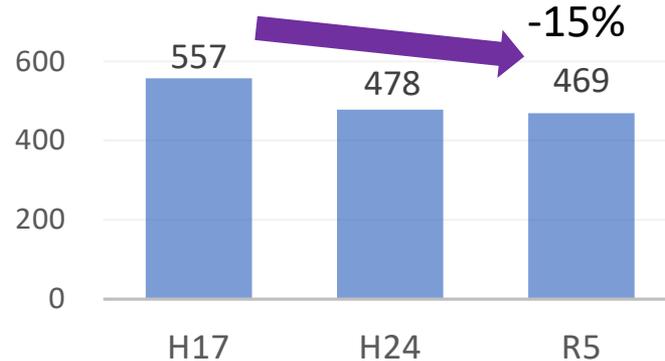
## ○人材

県内建設業従業者数（人）



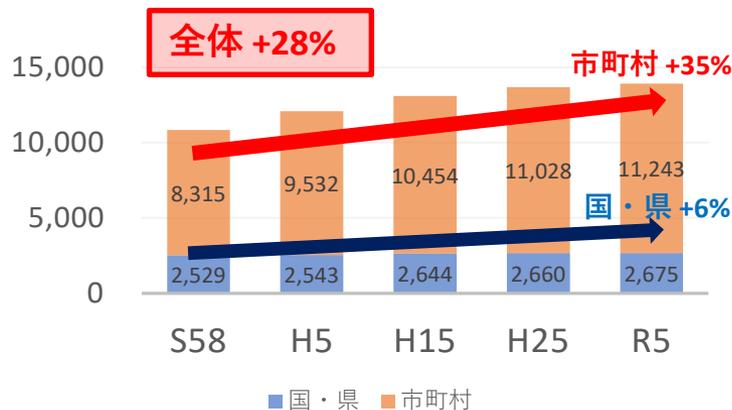
出典：総務省・経済産業省 経済センサス-活動調査等

県土木部技術職員数（人）

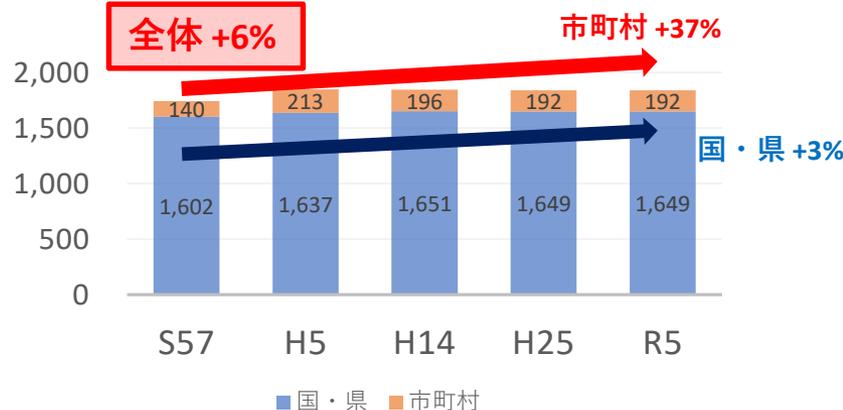


## ○公共インフラ施設

道路管理延長（km）



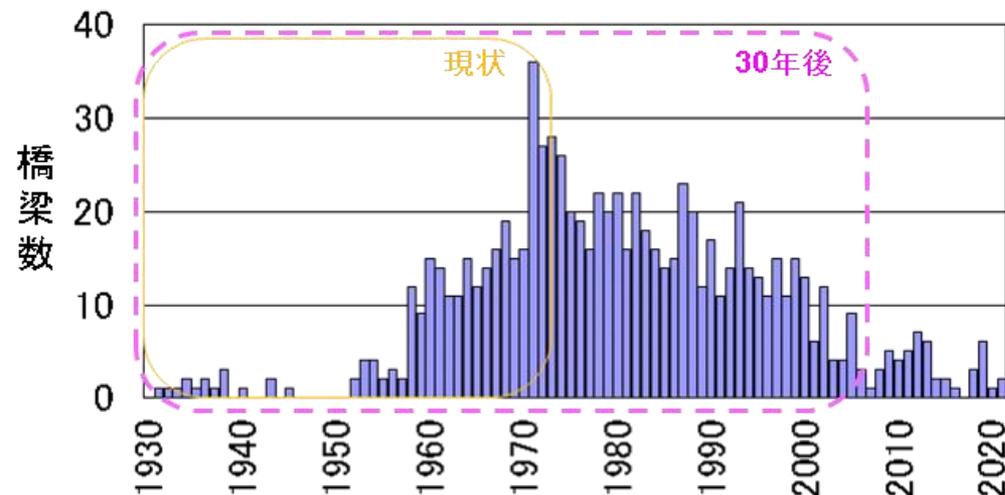
河川管理延長(km)



# 公共土木施設の状況

○県が管理する橋梁などの公共土木施設は、戦後の高度経済成長期以降に整備されたものが多く、今後は高齢化した公共土木施設の急速な増加に直面する

建設後50年経過する公共土木施設(県管理)の推移(R6.4現在)



## 橋梁 (15m以上)

現状 約39%

## トンネル

現状 約29%

## 港湾の岸壁

現状 約45%

30年後

約93%

100%

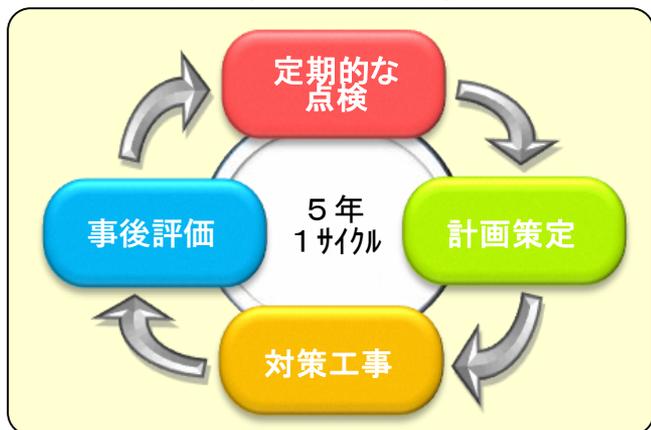
約92%

⇒人口減少下でも土木施設を計画的・効果的に維持管理していく必要



## ○長寿命化計画等に基づく計画的な維持管理

メンテナンスサイクル



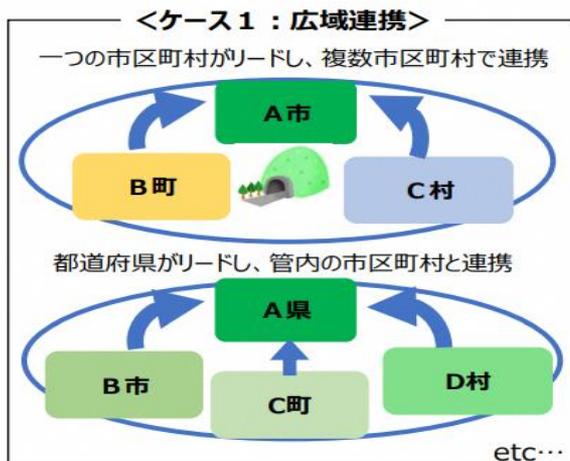
定期的な点検



対策工事



## ○複数・広域・他分野のインフラを群と捉えたマネジメント

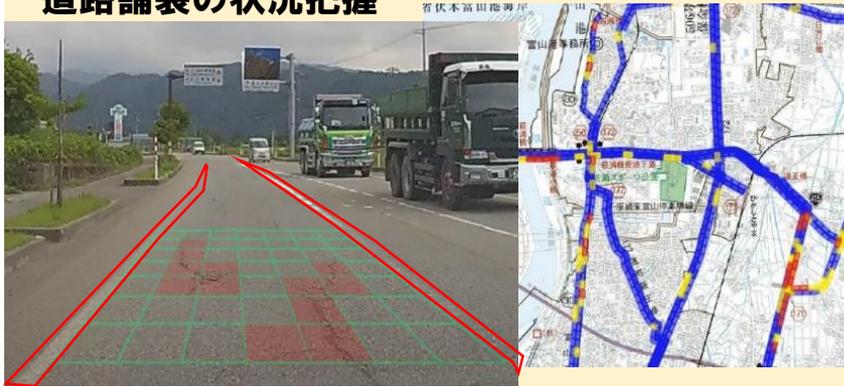


出典：内閣府 広報誌「ぼうさい」  
令和元年度春号

# 今後の取組みの方向性 ～ICT等を活用した県内の取組み～

○道路パトロールにおけるAIによる路面情報の解析など、業務の効率化も推進

## 道路舗装の状況把握



道路パトロール車に設置したカメラ画像からAIが路面状況を解析

- ・路面のひび割れを検知
- ・ひび割れ率と位置を記録
- ・交通量を踏まえ優先度を示す

## 除雪機械のワンオペレーター化【R6試行】



オペレーターと助手(2名乗車)

オペレーターのみ(1人乗り化)

## 河川状況の把握と発信

# とやま河川メール



とやま河川メール 富山県河川海岸カメラ・水位情報

受け取りたい河川の水位やダムの貯水位が登録した基準値を超えた場合に、スマートフォンやパソコン、携帯電話にメールが配信されます。



河川が増水し水位の基準値を超えると

自動的にメールを配信

登録ユーザー

ダムの貯水位が上昇し、基準値を超えると

事前に受け取りたい観測所やダムの情報を登録(〇〇観測所の〇〇水位)

自動的にメールを配信

## 堤防草刈りの負担軽減と効率化【R6～】



ラジコン型草刈機械を貸出し

# 建設業の担い手確保に向けて

R6.9.28

## 「けんせつ×テックフェス2024」

若年層に対し、建設業の仕事に興味を持ってもらうため、建設業に親しむ機会として開催。



## 県内建設企業向けの補助制度

建設業の経営基盤安定のため、担い手確保等の取り組みに必要な各種経費を支援。



R6.3.1

## webサイト「富山をTSUKURU」の開設

各分野の若手技術者が語る、仕事内容や魅力、やりがいなどを紹介。



現場レポ!



現場での出来上がり状況を  
確認するための測量も技術者の大切な仕事！  
この現場では、3次元設計データを使用した  
ICT 施工にもチャレンジしています。

現場レポ!



最近の現場ではデジタル化が進んでいます。  
3次元データを作成し、構造物の出来形管理や  
作業員の安全教育などに活用しています。

工事現場がこんなにハイテクに  
なっているなんて、驚きました！



# 社会資本整備を取り巻く我が国の社会課題と、目指す社会の姿

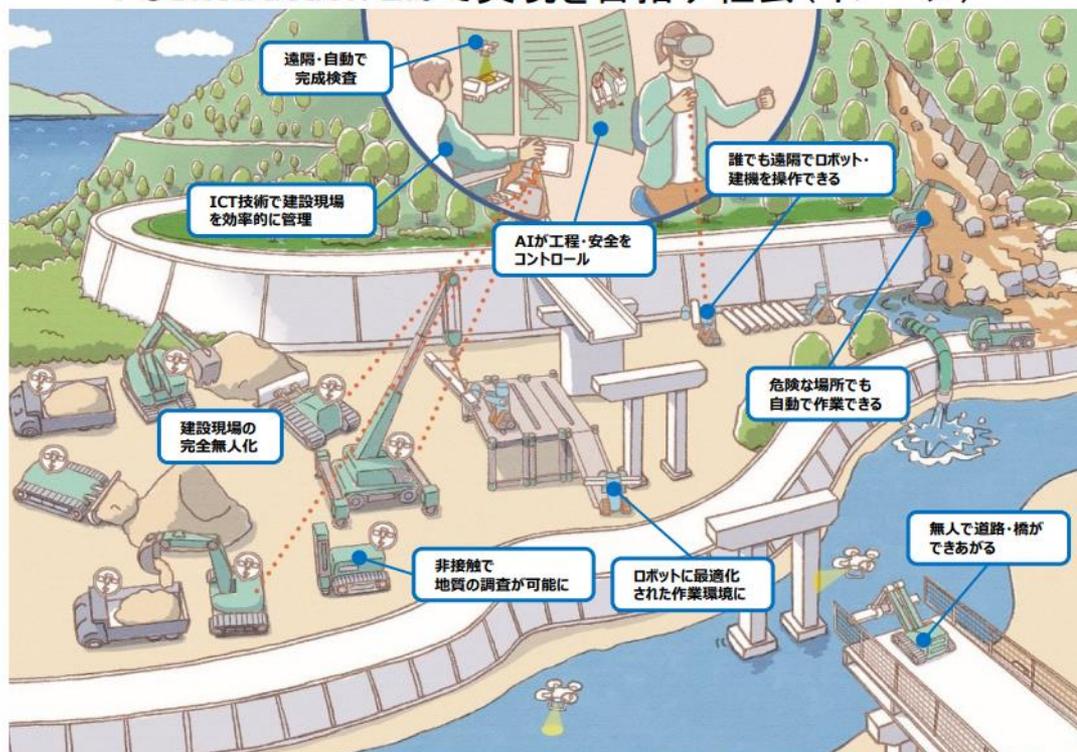
## 基本的な課題認識

## 目指す社会の姿（社会課題の解決の方向性）



- 建設現場の生産性向上の取組であるi-Constructionは、2040年度までの建設現場のオートメーション化の実現に向け、i-Construction 2.0として取組を深化。
- デジタル技術を最大限活用し、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場を実現。
- 建設現場で働く一人ひとりの生産量や付加価値を向上し、国民生活や経済活動の基盤となるインフラを守り続ける。

## i-Construction 2.0で実現を目指す社会(イメージ)



第5期技術基本計画を基に一部修正

## i-Construction 2.0: 建設現場のオートメーション化に向けた取組 (インフラDXアクションプランの建設現場における取組)

### i-Construction 2.0 で2040年度までに 実現する目標

#### 省人化

- ・人口減少下においても持続可能なインフラ整備・維持管理ができる体制を目指す。
- ・2040年度までに少なくとも省人化3割、すなわち生産性1.5倍を目指す。

#### 安全確保

- ・建設現場の死亡事故を削減。

#### 働き方改革・新3K

- ・屋外作業のリモート化・オフサイト化。